

板金加工業のDX推進

豆蔵デジタルHDプラットフォーム開発

デジタルソフト・サービスを手掛ける豆蔵デジタルホールディングス（本社東京都新宿区）は、今秋にもクラウドによる板金加工業向けデジタルプラットフォームの提供を新たに開始する。見積りから製造工程まで一貫貫した業務の見える化、情報一元管理を実現。レーザー溶接ロボットシステムの展開も併せ、ソフトウェア・AI（人工知能）技術で板金加工業の業務効率化やデータ活用、工場自動化などDX（デジタルトランスフォーメーション）推進を支援する。

見積りから製造まで一元管理

板金加工業界は中小企業が多く、工程も切断、穴あけ、曲げ、溶接、仕上げなど複雑なことからデジタル化やロボット導入が遅れ、労働生産性が低いとされる。人手・人材不足で熟練技能者の後継問題も生じている。

「日本のものづくりを支える板金加工業界の制約となつている業務課題を解決したい」と思いを語る。豆蔵デジタルHDグループは、メカ、エレキ、ソフトウェアの全ての技術に対応したロボットシステム開発支援を展開。特に強みとするAIや画像認識、外部制御などのソフトウェア技術を生かし、人手による作業工程での最適なロボット導入、自動化システムを提供している。

「日本のものづくりを支える板金加工業界の制約となつている業務課題を解決したい」と思いを語る。豆蔵デジタルHDグループは、メカ、エレキ、ソフトウェアの全ての技術に対応したロボットシステム開発支援を展開。特に強みとするAIや画像認識、外部制御などのソフトウェア技術を生かし、人手による作業工程での最適なロボット導入、自動化システムを提供している。

同デジタルプラットフォームは、従来、案件ごとに作成していた見積り作業をAIによる類似検索などで標準化するとともに、工程のシームレス化で効率性を高め、リードタイム短縮を進める。中原徹也社長は

「日本のものづくりを支える板金加工業界の制約となつている業務課題を解決したい」と思いを語る。豆蔵デジタルHDグループは、メカ、エレキ、ソフトウェアの全ての技術に対応したロボットシステム開発支援を展開。特に強みとするAIや画像認識、外部制御などのソフトウェア技術を生かし、人手による作業工程での最適なロボット導入、自動化システムを提供している。



中原徹也社長

昨年1月には、板金加工業向けCAD/CAMシステム開発・販売のエフエーティフォームで蓄積し、生産性向上や新サービス、イノベーションなど

バージョン創出などの活用も可能になる。

同HDグループは、今後板金加工業向けに加え、食品など製造工程が複雑で人手に頼る作業が多く、デジタル化が進んでいない業界向けのデジタルプラットフォーム開発を進める方針。

すでにERP（統合基幹業務システム）やDX人材育成向けの教育プラットフォームも提供しており、プラットフォーム展開を新規事業として拡大していく。

既存事業は、旺盛なIT・デジタル投資を背景に金融などの次世代基幹システム構築支援のクラウドや、デジタル、ロボティクス、教育ソリューション事業が好調に推移。自動車関連の機械設計や制御システム、デジタル化などの製造業ソリューションもコロナ禍以前に回復している。

中原社長は、「既存事業の成長と新規事業探索の両利きの経営」を強化する。業界、社会の課題を解決するデジタルプラットフォームをお客さまと一緒に実装し、育てていきたい」としている。